

秋田市大森山動物園情報誌

コミュニケーション

No.92
2016.10月号

CONTENTS

- P2~3 こんにちは!あかちゃん
移動動物/計報
飼育動物数
- P4 企業の皆さまにも支えられて
- P5 新しい動物ふれあいサービスがスタート!
【特集】
- P6~7 **アムールトラの導入**
- P8~9 飼育レポート/動物病院から
- P10~11 イベントレポート
今後のイベント
- P12 飼育日誌/お客さまの声/かたばた通信



秋田市大森山動物園

あきざん オモリンの森

写真:ライオン「ロアー」(群馬サファリパークから)。メスの「トモ」(多摩動物公園から)と一緒に約600kmを22時間かけてやってきました。

今回の「こんにちは!あかちゃん」では、大森山動物園で今年生まれた赤ちゃんを紹介します。

今年もニホンザルが8頭、シロフクロウが12羽誕生しました。

あかちゃん

こんにちは!



トナカイ

6月14日に誕生、名前は元気。2年ぶりの繁殖です。産まれてすぐは弱々しく、上手に母乳が飲めなかったため、介添えて飲ませたり粉ミルクを飲ませたりしました。1週間ほどすると、体重測定で暴れて抱きかかえられないほど順調に成長し、8月にはお母さんと一緒に塩曳潟で水泳デビューもしました。



レッサーパンダ

7月13日に双子が生まれました。大森山動物園では3年ぶりの繁殖です。3年前に生まれたゆりがお母さんになりました。初めての出産にもかかわらず、上手に子育てしています。順調に行けば、10月中に親子で展示場にデビューします。お楽しみに!

この他、アカカンガルー2頭、ワオキツネザル2頭、コモンマーモセット、シバヤギ2頭、モルモット、フンボルトペンギン、ヨーロッパフラミンゴ、コクチョウ4羽、ヒナイドリ3羽の赤ちゃんが元気に育っています。

げんきでね!

大森山を後にした動物たち



昨年7月に生まれたシロフクロウのヒナは、盛岡市動物公園、多摩動物公園、大宮公園小動物園、いしかわ動物園に旅立ちました。

この他、フンボルトペンギンが長野市城山動物園へ、チョウゲンボウが盛岡市動物公園へ、シバヤギのメス3頭が市川市動植物園へ、マーコールのオスが狭山市立智光山公園こども動物園に旅立っています。



4月21日、チンパンジーのココが沖縄こどもの国へ、繁殖を目的にした動物の貸出で引越しました。雪のない沖縄でのんびり過ごしてほしいものです。

訃報

忘れないよ...

ライオン

ラガー/オス(17歳)

4月18日死亡

ラガーは2009年4月23日に10歳で大森山動物園にきました。ハンサムではありませんでしたが、歴戦の勇士のような威厳がありました。パートナーであるメスのマンゴーとの相性もよく、お腹に響く咆哮や迫力のある姿などで人気がありました。



チンパンジー

のり子/メス(推定38歳)

5月11日死亡

のり子は1981年12月12日に来園しました。他のチンパンジーとは異なり、夏でも寒そうに両肩を抱くように歩くその姿から、往年の「ブルースの女王」にちなみ、のり子と命名されました(実は淡谷という名字付きです)。イケメンが大好きで、乙女チックなのり子はとても人間臭く、飼育担当者を始め、多くの人に愛されました。

ヨロシクね!

nice to meet you

仲間入りした動物たち



アムールトラ

3月17日にロシアのノボシビルスク動物園からヒロシのお嫁さんとしてやって来たカサンドラです。詳しくは6~7ページの「特集~アムールトラの導入~」をご覧ください。



シフゾウ

シフゾウは8年ぶりの展示です。熊本市動植物園からサリーがやって来ました。比較的高齢な個体なので、長旅による疲れが心配でしたが、元気に輸送箱から出てきました。ちなみにサリーは以前大森山にいたマリーの妹です。



マーコール

4月27日に狭山市立智光山公園こども動物園との交換でメスのさくらがやって来ました。最初は新しい場所になかなか慣れることができず、物陰に隠れていることが多かったのですが、今ではすっかり群れにとけ込んでいます。



ライオン

6月30日に群馬サファリパークからオスのローアが、多摩動物公園からメスのトモが仲間入りしました。群れで暮らすライオンです。早く一緒にいたいところですが...飼育担当者の苦勞は9ページの「飼育レポート」をご覧ください。

ノドジロオマキサル

7月15日に日本モンキーセンターからノドジロオマキザルのパリスがやって来ました。繁殖を目的にお借りしたものです。大森山のノドジロオマキザルは10頭の大家族です。新しいお嫁さんが早く家族の一員になれるように皆さん見守ってください。

マーコール

キキ/メス(9歳)

5月29日死亡

大森山で生まれたキキは群の中では立派なお母さんでした。今年もお腹が大きくなり、かわいい赤ちゃんが産まれるのを楽しみにしていましたが、とても残念です。

この他にもワライカワセミ、モモイロペリカン、フンボルトペンギン、ミーアキャット、エミューなどが亡くなりました。

飼育動物数 2016年6月末現在

哺乳類	52種	342点
鳥類	36種	190点
爬虫類	11種	28点
両生類	2種	4点
魚類	3種	18点
無脊椎	1種	16点
合計	105種	598点



穂積市長、湊屋秋田銀行頭取も参加した
ネーミングライツ看板除幕式(3月19日)

園長 小松 守

当園は子どもからご年配まで幅広い人々が利用する秋田市民の大切な憩いの場の一つであり、動物との出会いの中、家族が語らい幸せな時間を過ごす貴重な空間です。県外客も多く、観光スポットにもなっています。こうした大切な市民の財産である動物園は園内ガイドやガーデニングのボランティアさん、動物園応援会の皆様、餌の支援などを長年続けてくださる企業や団体など多くの人々に支えられながら成長してきました。

最近ではお客様に、より快適な園内空間で楽しんでもらうための環境改善や園内サイン充実のために物品の支援を行ってくださる地元企業や団体等が登場するなど支援の輪が広がりを見せています。

今年3月には、株式会社秋田銀行様が「大森山動物園のネーミングライツ・パートナーになっていただく大きな動きもありました。当園のイメージキャラクター・オモリンを登場させた素敵な愛称「あきぎんオモリンの森」は新たなイメージ発信となり、ご提供いただいた資金で整備したWi-Fi環境などはおお客様の利便性向上に大きく貢献し、新たな賑わいづくりに結びつくことでしょう。

市民の大切な財産である動物園は今、企業支援なども加わり、益々活気を帯び成長し続けようとしています。企業様からの新たな動物園活用が広がることで、新たなサービスにも結びつくことでしょう。様々なご支援にこの場をお借りしてお礼申し上げます。

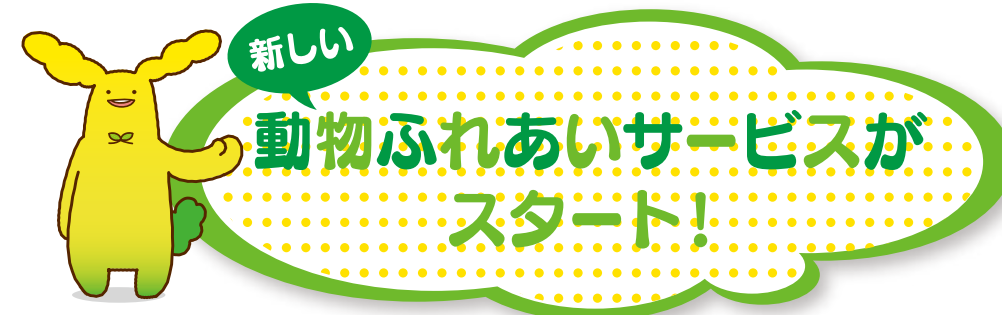
企業の皆さまにも支えられて



秋田県中部地区郵便局長会様からの園内看板寄贈(7月30日)



株式会社電洋社様からの物品寄贈(8月5日)



カンガルーのエサやり体験

カンガルーアイランドでエサやり体験

飼育展示担当 奥山 麻裕子

去年の秋に、カンガルー屋外展示場の中央に円形の広場カンガルーアイランドが完成しました。カンガルーを間近に見ながら通路を歩いて行くとアイランドに到着します。そこでは、リラックスした様子で寝そべる大きなオスや、かわいい子どもがお腹の袋から顔を出すメスを目の前でじっくりと観察することができます。

人が近くにいるにも落ち着いている穏やかな性格のカンガルーたちは、お客様の手からもエサをよく食べてくれるので、今年の夏から土日祝日限定で、エサやり体験(有料)もスタートしました。ぜひ、大森山のカンガルーファミリーに会いに来てください。



カンガルーアイランド



ペンギンのお散歩

ペンギン展示場周辺でペンギンのお散歩

飼育展示担当 関谷 藍子

今年の春、ペンギン展示場上部に新しく芝生のエリアが完成しました。ペンギンと同じところに立ち、より近くで見えていただけるようになりました。

また、改修場所の扉からペンギンが登場する新イベント「ペンギンのお散歩」がスタートしました。ペンギンが展示場を飛び出して、お客様と一緒に展示場の周りをお散歩します。お客様にペンギンたちの運動不足解消のお手伝いをしてもらいながら、ペンギンとのふれあいを楽しんでいただこうというものです。

参加するペンギンは毎回少しずつ違うので、お散歩のペースや反応も毎回違います。山あり谷ありのコースをお客様とペンギンが協力しながら歩ききった後、双方には少なからず一体感が生まれ、ゴールと同時に感動の拍手が沸き起こることもしばしば。ベタベタと歩くかわいらしい姿をぜひ見に来て下さい。



ペンギン展示場芝生エリア

全国の動物園水族館では、持続的な動物展示を可能にするため、飼育動物の確保が課題となっています。しかし、ただ増やしたり集めたりすれば良いわけではなく、「飼育動物の遺伝的多様性を維持しながら」という難しい条件が加わってきます。

今回、大森山動物園はアムールトラの展示を続けていくために、新たなメスを海外から導入しました。その取り組みについてご紹介します。

飼育展示担当 主席主査 三浦 匡哉

特集

アムールトラの導入について

1 2014年の大森山動物園

2014年当時の飼育は、アシリ(メス15歳)とヒロシ(オス3歳)でしたが、アシリとヒロシは祖母と孫の関係であるため、ヒロシのお嫁さんを探すことにしました。

お嫁さんを探すのは簡単ではありませんでした。日本国内ではヒロシの親戚が多く、これ以上この家系を増やすと国内アムールトラの血統に偏りが生じてしまうからです。ヒロシのお嫁さんはいずこに…。



ヒロシ



アシリ
(2015.5.27死亡)

2 救いの手現る

そんな中、大きな動きがありました。公益社団法人日本動物園水族館協会がアムールトラのGSMP(国際種管理計画 Global Species Management Plan)という、絶滅の危機にある野生動物の種の保存や血統管理を行う国際的な取り組みに参加することになったのです。これにより、国内では探せなかったヒロシのお嫁さんが海外から来る可能性ができたのです。またとないチャンスです。

そこで、同協会のアムールトラの繁殖計画管理者である神戸市立王子動物園の担当者に連絡し、ヒロシのお嫁さん候補について相談しました。すると、ロシアに良いお嬢さんがいるというではありませんか。お嫁さんの名はカサンドラ! この絶好の機会を逃すわけにはいきません。

3 チャンスを活かすために

ロシアの動物園が無償でアムールトラを譲ってくれることがわかりました。とはいえ、ロシアからトラを連れてくるには相当のお金がかかります。そこで、次年度の予算にトラの輸送費を計上することにしました。市長や議会にアムールトラ導入の重要性について説明した結果、無事に予算が認められました。

4 難関また難関

これまで大森山動物園では外国の動物園から動物を直接導入することがほとんどなかったため、動物の輸入に不慣れです。そこで、海外からの動物導入の経験豊富な各地の動物園に問い合わせ、いろいろと貴重な情報をいただきました。

動物を輸送する業者も決まり、ホツとしたのもつかの間、海外から希少な動物を輸入するための様々な手続も進めなくてはなりませんでした。言葉の通じないロシアのノボシビルスク動物園との間で動物をやりとする書類の作成、合意後にはトップのサインを交わした書類の交換などです。

続いて、最大の難関「ワシントン条約」です。飼育下で生まれた動物の輸入では、繁殖を目的にした内容で書類を準備しますが、今回輸入するトラのお母さんが野生由来だったため、さらに厳格な審査が必要となったのです。国(経済産業省)の指導のもと、こちらも何とかクリアすることができました。

そして危険なトラを輸送するため、箱の許可など様々な手続きで難関また難関の連続でした。



経済産業省の証明書

5 待ちに待ったカサンドラの到着

当初、2015年度の通常開園中に展示することを目標にしていました。ロシアからも「早くしないと親と同じくらいの大きさになってしまう」と急かされていました。

しかし、輸入の手続に思っていたよりも時間がかかり、予定が「通常開園中」から「年内」、さらに「年内」から「2月末」とずれ込んでいきました。真冬のロシアは平均気温が氷点下20℃前後とかなり寒いため、移動するには過酷なコンディションです。このままでは年度内の搬入も難しいのではと心配していた矢先、3月上旬に輸入業者から連絡が入り、話はトントンと進み、3月17日に無事当園まで移動することができました。動物舎への搬入作業も無事に終わり、寝室に入ったカサンドラ。どれだけ大きなトラが来るのか不安でしたが、あどけなさの残るかわいいトラでした。



カサンドラの搬入

6 アムールトラの今後について

4月に入り、新しく仲間入りしたカサンドラは次第に大森山に慣れてきました。日本にはないカサンドラの血を入れることで、国内のアムールトラの遺伝的多様性を維持することができそうです。カサンドラの成長を見守りながら、ヒロシとの間に赤ちゃんが生まれるよう園一丸となって取り組みたいと考えています。



カサンドラ

7 まとめ

大森山動物園では、展示動物を維持するため「収集展示等検討委員会」を定期的に開催しています。

今回、アムールトラの導入は海外からの救いの手により課題を解決することができましたが、これからも当園は同協会と歩調を合わせ、希少種の保存に寄与しつつ、多くの来園者に喜んでいただけるような動物展示を継続していきたいと思います。

飼育レポート

飼育レポート1

アシカ夫婦の繁殖期

飼育展示担当 千葉 可奈子



マヤ(右)とアイラ

昨年の12月に大森山動物園にお嫁にやってきたカリフォルニアアシカのアイラ。到着後、早い段階でオスのマヤと一緒にプールで泳ぐことができました。そんな姿を見ていたら、来年の6月には赤ちゃんが見られるかもしれないと期待させてくれました。そんな矢先、まさかのトラブルは突然訪れました。

アシカの繁殖期は5～7月です。例年、マヤは早ければ4月末くらいから発情の兆候を見せ始めます。野生のアシカは繁殖期になると、メスは安全に子育てが出来る場所に集まるので、オスの場所取り争いは激戦必至。戦いに勝った一番強いオスが人気の一等地を手に入れ、自分の遺伝子を残すことができるのです。そのため、繁殖期のオスは普段に比べ気性が荒くなります。

4月末のある朝、アイラが前ヒレをケガしていました。そばには猛アピールをしているマヤ。しつこく追いかけてくるマヤが嫌で痛いのを我慢しながら逃げるアイラ。無理して動いてはケガの治りも遅くなり負担もかかるので、療養のために2頭を隔離することに。アイラのケガもよくなり、いざ、再び同居となった時、仕切り扉を開けるとアイラが全身で嫌悪感をあらわにしたのです。マヤが近づくと大きく口を開け「ガアッ!」と威嚇します。発情ピークの過ぎ去りつつあったマヤは、アイラのあまりに激しい反応にたじたじ。本当はちょっと怖いのを押し殺して素知らぬ顔をアピールするマヤ。アイラの拒否反応は収まらず、しょんぼりしたり、逆ギレしてみたり、複雑な心境のマヤくん。

激しい夫婦喧嘩は見ているこちらをハラハラとさせますが、喧嘩するほど仲がいい夫婦であるように、近いうちにまた2頭一緒に泳ぐ姿が見たいです。

飼育レポート2

サンショクキムネオオハシの同居

飼育展示担当 千葉 可奈子

大森山動物園で2000年から飼育を開始したサンショクキムネオオハシは、国内での飼育数が少なく、単独飼育がほとんどです。海外からの新規個体導入も難しく、現在の個体がいなくなってしまう場合は、国内で見ることができなくなるかもしれません。

こんな状況の中、繁殖の期待を背負い、待望のオスが昨年12月に神戸市立須磨海浜水族園からやってきました。お婿さんの名前はオオハシくん。推定年齢16歳で、以前からいるメスのコセンより1つ年上です。うまくいくと、国内で唯一となるオオハシペアが誕生です。

検疫を無事に終え、いざコセンの待つ展示場へ。はじめは網越しのお見合いを行うことから始めました。コセンもケージの前でオオハシくんを眺めることも多くなり、お見合いは順調に進んだように見えてましたが、いざ2羽を同居させてみると、コセンは目つきを変えオオハシくんを追いかけ回しはじめたのです。執拗な追いかけに同居は中止に。

オオハシくん^に展示場に慣れてもらい、コセンにも展示場は共有スペースだとわかってもらうため、コセンをケージに入れ、オオハシくんが展示場を自由に使う時間を設けました。はじめはあまり動き回りませんでしたが、慣れてくるとコセンに向かって大きく鳴いたり、ケージのそばに滞在したりする時間が長くなりました。

時にはオオハシの求愛の果実であるブドウをくわえてコセンのケージのそばに寄ることも。はじめは距離をとっていたコセンもオオハシくんが来ると自分から近づくように。今度こそ、うまくいくのでは!?と思い、再び同居をしてみました。結果は惨敗。以前と変わらず、コセンがオオハシくんを攻撃し、オオハシくんもすっかり怯え、震えてしまいました。

オオハシのカップルが成立するまでには、まだまだ時間がかかりそうです。



コセン(左)とオオハシくん

飼育レポート3

ライオンの同時搬入と今後の同居訓練

飼育展示担当 佐藤 正



ロアー



トモ

6月30日早朝、王者の森に新しいライオンが仲間入りしました。群馬サファリパークからオスのロアー、多摩動物公園からメスのトモの同時搬入。大森山動物園では、今まで1度に複数の猛獣を搬入した経験がないため、搬入手順を何度も打ち合わせして当日を迎えました。

獣舎入口に横付けされたトラックからライオンの入った輸送箱を1個ずつ獣舎内に入れ、ライオンを専用通路から室内に誘導していく作業を1時間程かけて行い、2頭を室内に収容するのに約3時間かかりました。室内に収容された2頭は対照的で、ロアーはすぐに室内に慣れたのか横になりリラックスしていました。一方、トモは落ち着かない様子で室内を動き回り心配しましたが、時間が経つと横になり落ち着きを取り戻しました。

翌日から室内に餌をおいて通路の移動訓練や慣れてくると室内から展示場への展示訓練を行い、8月末には隣に展示しているアムールトラの様子を気にしながらもようやく以前からいるメスのマンゴーを含め3頭日替わりで展示場に出す事ができるようになりました。

これからは、ロアーとトモのお見合いを繰り返しながら同居できる環境を作り、二世の誕生に向けて飼育していきます。

動物病院から

趾瘤症(バンブルフット)の予防

獣医師 小川 裕子



趾瘤症のペンギンの足

動物園の診療では、足裏の病気が多いようです。今回はフンボルトペンギンの趾瘤症(バンブルフット)とその予防についてご紹介します。この病気は足裏の傷からバイ菌が入って腫れたり、魚の目状に角質化したりしてしまう病気です。たかが魚の目と侮ってはいけません。傷口から入ったバイ菌が原因で死んでしまう事もあるのです。主に、足を引きずって歩く跛行という症状がでます。床が硬いコンクリートであることや、立っている時間が長い事が原因です。

ペンギンの足にかかる体重を足裏全体に分散させるため、展示場の一部に人工芝の場所を作りました。跛行のペンギンが自ら人工芝まで来る理由は、体重が分散されて楽だからなのでしょう。まだ発症していないペンギンの予防にもなります。病気の予防は治療以上に大切です。

また、動くものを追いかけるペンギンの習性を利用して泳ぐ時間を延ばす事も病気の予防になります。お客様がプール横を歩く時にペンギンが並行して泳ぐ事はとても良いことです。猫じゃらしで猫と遊ぶ様に手を動かしてペンギンと遊んでください。

バンブルフットはペンギンの他にも鳥類全てに発症します。地面を砂地にしたり、止まり木に人工芝を巻いたり工夫がたくさんあります。

病気の予防方法を工夫することも獣医師の大切なお仕事です。



人工芝の上で休むペンギン

平成28年通常開園セレモニー、 ネーミングライツ看板除幕式

▶3月19日(土)

今シーズンの通常開園がスタートし、当日は穂積市長、高木名誉園長出席のもと、開園セレモニーが行われました。

また、今シーズンから株式会社秋田銀行が大森山動物園のネーミングライツ・パートナーとなり、動物園の愛称が「大森山動物園～あきぎんオモリンの森～」となりました。ビジターセンター正面には新しい愛称の看板が設置され、開園セレモニーに引き続き秋田銀行頭取も出席し看板の除幕式を行いました。(4ページもご覧ください)



穂積市長のあいさつ

飼育の日

▶4月19日(火)～24日(日)

4月19日は動物園・水族館の役割や飼育の仕事を理解してもらおうと日本動物園水族館協会が定めた「飼育の日」です。大森山動物園でも毎年飼育員が工夫を凝らしたイベントを実施しています。今年のテーマは「餌(えさ)」。企画展としてベレットやサプリメント、牧草等の展示をはじめ、餌の写真から動物を当てるハンズオン等を実施しました。また、23日には園長によるトーク&クイズ大会、24日には丸一日飼育員体験ができる「チャレンジTHEキーパー」を行い参加者にも好評でした。



餌の展示



チャレンジTHEキーパー

与次郎駅伝

▶7月17日(日)

秋田市中心市街地で毎年開催されている与次郎駅伝。昨年に引き続き今年も「チームオモリン」として4人の職員が出場し、夜の動物園などをPRしながらゴールを駆け抜けました。



イベント レポート event report



春の動物ふれあいフェスティバル

▶6月5日(日)

天候に恵まれ大勢のお客様が来園した動物園の人気イベント、春の動物ふれあいフェスティバル。人気の「動物パレード」では、ラマを先頭にイヌワシ、シロフクロウ、ラクダなど9種類の動物が行進し、終了後には参加した動物たちとのふれあいタイムや写真撮影を行いました。

今年初のイベントとして、動物たちがミルヴェンジャー7と一緒に森のステージに登場してクイズを出題する「ふれあいクイズ大会」を行いました。ミルヴェンジャーも参加者とペアを組んで重さ当てクイズに挑戦し、一緒にイベントを楽しみました。



動物パレード



ふれあいクイズ大会

スダックスの収穫と給餌体験

▶7月22日(金)

毎年、大森山動物園では地元の小学校などと協力し、ゾウさん堆肥を使って飼料作物のスダックスを栽培しています。今年も4月に堆肥散布、5月に播種を行い、7月に約1.5mに成長したスダックスを収穫しました。今回の収穫作業には、高木名誉園長も参加し、地元の浜田小学校、栗田支援学校の児童25名が、力を合わせ約60kgのスダックスを収穫しました。収穫作業では、高木名誉園長が自ら鎌を手に児童たちと一緒に作業し、収穫後に一輪車にスダックスを積んでゾウ舎まで運び、みんなでゾウに食べさせました。

参加者全員が協力して収穫や給餌を体験し、児童たちは最後までやりきったという満面の笑みでした。

また、翌日にはゾウさん堆肥利用者のご協力で、ゾウさん堆肥を使って作った夏野菜を動物園正面ゲート前で販売し、お客様からも大好評でした。



第39回

親と子のふれあい写生大会

▶7月23日(土)・24日(日)



名誉園長の写生風景

今年で39回目となる写生大会が7月23日(土)、24日(日)に開催され、暑い日差しの中、523点の作品が提出されました。

また、今回は高木名誉園長も参加してカピバラのかわいらしい絵を描いていただきました。

秋田市造形教育研究会による審査で合計108点の作品が受賞し、8月21日(日)に行われた表彰式で、市長賞をはじめ、新設の秋田銀行賞、名誉園長賞などの受賞者に賞状と副賞が贈呈されました。また、表彰式終了後には名誉園長と巡る園内ツアーも開催され、ペンギンの散歩やカンガルーのエサやり体験などを行いました。



秋田市長賞
大曲小学校1年 熊谷彩芭さん



秋田市議会議員賞
外旭川小学校4年生 黒崎眞歩さん



秋田市教育長賞
秋田大学教育文化学部附属小学校1年 大門佳央さん

サマースクール

▶7月27日(水)・28日(木)

今年で42回目となるサマースクールは、動物を観察しながら体のつくりや暮らしについて学ぶ体験型の教室として開催しました。

今年のテーマは動物の「手」です。2日間で48名の参加者が、午前中は動物の手を観察しながら飼育体験に汗を流し、午後のワークショップではそれぞれの動物の「手」がどうしてその形になったのかを考えました。サマースクールを通して動物を間近で観察し、新しい発見したことで、ますます動物への興味を持ってもらえたらと思います。



飼育体験



ワークショップ

夜の動物園

▶8月11日(木)～15日(月)

昨年同様5日間の開催となった「夜の動物園」。今年は8月11日の「山の日」からスタートしました。期間中は、写生大会参加者や秋田公立美術大学のワークショップで制作いただいた、たくさんの絵灯ろうが大屋根広場やピクニック広場などを幻想的に照らしました。夜のまんまタイムや動物トレーニングなど恒例のイベントを毎日開催したほか、特別イベントとして「ミルヴェンジャー7ステージショー」や「チンパンジーの夕涼み会」などを開催しました。

また、14日には大森山動物園応援会提供でミニコンサートが開催され、昼の部ではピアノとヴァイオリンのハーモニー、夜の部ではジャズの演奏を堪能しました。

今年はお天気に恵まれ、昨年より約2千人多い1万1千人以上のお客様にご来園いただきました。



夜の動物園の絵灯籠



ミニコンサート



オオカミのまんまタイム



予告

さよなら感謝祭 ▶11月27日(日)

通常開園最後の日曜日の11月27日に、動物の慰霊とお客様への感謝の気持ちを込めて、「さよなら感謝祭」を開催します。当日は、通常入園料大人720円のところ520円で入園できます。(他の割引との併用はできません。)

2017年
雪の動物園 ▶1月7日(土)から2月26日(日)

毎年好評の「雪の動物園」は今シーズンも開催。一面銀世界の動物園と、その中で過ごす動物たちの表情をご覧ください。

1月 1日	チンパンジー	のり子♀ おにぎりを給餌し続けるようになったら調子が良くなったように見える。	4月 4日	ライオン Fケージ	ラガー♂ 削そう顕著になる。ふらつきあり。
1月 2日	カリフォルニアアシカ	アイラ♀ 室内の仕切りを跳び越えようとしてツツカケを破壊。異常なほどの餌への執着心。	4月 6日	カリフォルニアアシカ	アイラ♀ 全身に咬傷および前肢に裂傷あり。
1月 3日	イヌワシ	第1ペアはまた積極的ではないが、第2ペアは積極的。また、例年と違い、現段階で西目の威嚇行動が見られた。	4月 9日	アムールトラ	カサンドラ♀ 展示訓練。初めて全身が展示場に出る。
1月 4日	オオハシ舎	ストーブ故障のため全頭病院へ避難隔離。	4月18日	アムールトラ	カサンドラ♀ 朝から展示訓練。午後電柵の中に入る。夕方飛び出して寝室に戻ってきた。
1月 5日	キリン	2頭に体重計に乗せる馴化実施。	4月19日	タンチョウ	ペア 擬卵に交換。
1月 8日	ラマ	アンズ♀ お散歩の練習行方。	4月20日	フラミンゴ	終日出し放し開始。
1月 9日	キリン	カンタ♂ 下痢継続。トレーニング:四肢全て体重計に乗せることができた。	4月22日	ライオン	マンゴー♀ ラガーを探して吠えている。
1月11日	イヌワシ	西目♀ 1卵目産卵。	4月24日	アムールトラ	カサンドラ♀ お披露目会時はシュート下でじっとしていた。その後、少しだが展示場とシュート下をうろろしていた。
1月12日	シンリンオオカミ ラクダ	ジュディー♀ 発情出血あり。 来々♀ 園内散歩の練習。	4月30日	マーコール	新規♀ スライダーの影響はあるもののだいぶ落ち着いてきた。
1月14日	カリフォルニアアシカ	アイラ♀ キーパーの手に噛みついた(咬傷事故)。また、他のキーパーの足にも噛みついた。	5月 2日	オオカミ	ジュディー♀ 収容トレーニング通路で1m範囲まで寄ってきた。
1月18日	シンリンオオカミ	オオカミ展示場カメラ設置。	5月 4日	キリン	リンリン♀ 肝機能の数値、順調に下がってきている。
1月20日	オオカミ	シン♂・ジュディー♀ 交尾確認(日中2回)。	5月10日	チンパンジー	のり子♀ 体調不良経過観察中(危篤状態)。
1月24日	タンチョウ	鶴太郎♂・お市♀ 求愛ダンスを踊っていた。	5月17日	トナカイ	サクラ♀ 胎動と思われる動きが見られた。
2月 2日	ラマ	アンズ♀ 移動動物園用の輸送箱に入れる練習行方。	5月18日	カピバラ	コムギとサツキ・ぐり・ぐら同居。ぐり・ぐらとの交尾確認。
2月 7日	ワライカワセミ	ギン♀ 白内障進み止まり木に止まれなくなる。	5月24日	シナイモツゴ	モツゴ保全池でシナイモツゴ卵発見。午後に稚魚確認。
2月10日	ラクダ	楽楽♂ 発情はほぼ終わった様子。	5月28日	トナカイ	暑さ対策としてスプリンクラー稼働。
2月13日	マーモセット	寝室に土鍋設置。中で丸まって遊んでいる個体もいる。	6月 2日	レッサーパンダ	ゆり♀ 出産準備のため本日より非展示、特に異常なし。
2月15日	イヌワシ ツキノワグマ	第2ペア 抱卵放棄、西目産卵の卵2個回収。 稔♂ 午後、寝室内を活発に動き回る。	6月15日	ライオン	マンゴー♀ 巻き爪のため爪切り実施。覚醒良好。
2月18日	イヌワシ	発育卵で孵卵器入卵中であった、「西目」の1卵目を「信濃×たつこ」ペアへ移入を行う。「たつ子」が抱卵中であった「西目」の2卵目は回収する。	6月16日	アシカ	2頭が入れ替わる。原因不明。アイラ♀が一時興奮状態になる。怪我はなし。
2月19日	チンパンジー	のり子♀ 麻酔下検査実施。	6月17日	キリン	リンリン♀ 尻もちをつく形で転倒。
2月21日	ツキノワグマ	冬ごもりを中止し給餌開始する。	6月28日	レッサーパンダ	産箱ビデオ撮影開始。
2月23日	キリン	リンリン♀ 尾動脈エコー診断(初)。 カンタ♂ フレーメン、追尾確認。	7月10日	トナカイ	元気♂ 石に付着したコケを食べている。
2月24日	レッサーパンダ	ケンシン♂・ゆり♀ 同居3回目、交尾確認。	7月14日	コクチョウ	子3羽捕獲し、断翼後、抗生剤、止血剤を注射し病院へ移動。ヒナにマイクロチップ注入。
2月29日	ノドジロオマキザル	チャールズ♂・ナナエ♀ 交尾確認。	7月15日	シフゾウ	サリー♀ 暑さへの対応が苦手なように見える。
3月11日	トナカイ	ルドルフ♂ 落角あり。	7月19日	ライオン	ローア♂ 展示訓練開始。
3月17日	チンパンジー	のり子♀ 体調不良経過観察中。具合が悪くなってから初めて外に出る。	7月24日	シロフクロウ	シロフクロウ(展示場)倉内砂地火災滅菌作業。
3月21日	アムールトラ ラクダ	カサンドラ♀ 餌を食べ始める。 来々♀ 園内散歩時、なかなか進まず、路面が黒く濡れると嫌がる。	7月26日	フラミンゴ	ヒナ片立ち確認。
3月31日	イヌワシ	イヌワシ予備舎(月子・シロフクロウ側)冬囲い除去。	7月27日	フンボルトペンギン	ヒナ巣立ち。 70日齢。
			7月28日	レッサーパンダ	仔2頭の体重計測(260g・280g)。

お客さまの声

1月17日

フクロウのトレーニング後、タッチング、写真撮影をした若い女性のお客様数人(秋田在住の方と中国の方)より「フクロウに触るのが夢だったので本当にうれしい。絶対にまた来ます!」

3月21日

カンガルーの餌やりをしていたお客様「カンガルーを目の前で見ると、思ったよりも頑丈そうな身体をしている。特に後肢の大きさに驚いた。」

3月28日

ミニプタの給餌時、女性のお客様からのいろいろな質問にお答えしたところ、「ミニプタのイメージが変わりました。おもしろいですね。今度トレーニングを見に来たいです。」と声をかけていただきました。

4月30日

フラミンゴ展示場のガラス前で「久しぶりに来たけど、すごくきれいになったんだね～。前はガラスじゃなかったよね…」

5月18日

「ジャンプが機敏で大きいカンガルーはクミコちゃんですか?近づいてきてくれました。同じ名前なんですよ!」と70～80代くらいの女性のお客様が嬉しそうに話していました。

6月24日

ふれあいから出口への行き方が分からない。出口への案内看板があれば良いと思う。(後日、看板を設置)

7月3日

新イベント「ペンギンのお散歩」のモニターになっていただいたお客様より「すごく楽しかった。初めてやったので最初のうちは少し難しかったけど、終わりは慣れた。誘導板は小さい方が持ちやすい!」(男子小学生)、「ペンギンを近くで見ることができてうれしかった。」(30代男性)との感想をいただきました。

〈かたばた通信〉

今号の表紙は初めてのライオンです。名前はローア、群馬サファリパーク生まれの5歳のオスです。17歳まで生きたラガーが死亡したことで新たに大森山動物園にやってきました。「ライオン」という種名しか知らなければ、どのライオンも同じに見えますが、その名前や大森山に来た経緯、大森山での歴史を知ると親しみがわいてきます。ローアもペアで来たメスのトモと一緒にこれから大森山で歴史を作り、みんなから愛されるライオンになってほしいです。(吉田)